

令和7年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

1 結果と分析

- 男子女子ともに、特に握力やソフトボール投げ、上体起こしなどの大きな力を出す能力である筋力が優れている。
- 男子女子ともに立ち幅跳びのすばやく動き出す能力である瞬発力に課題がある。
- 男子については、長座体前屈の柔軟性が課題であり、女子については、反復横跳びの敏捷性に課題が見られる。

2 取組についての評価

(1) 体育科の学習指導

①効果があった取組

- ・体力テストの測定の前に事前に練習する時間をとったことで、児童が競技や測定に慣れたこと。
- ・大縄大会の取組を通して、体を動かす習慣が増えたことで、基本的な体力が向上したこと。

②改善を図る点

- ・体育の学習の中で、相手や物の動きに合わせて素早く体を動かす瞬発力や敏捷性を伸ばすことのできる活動を多く取り入れること。
- ・児童が主体的に運動に取り組めるように ICT 機器を使って動きを撮影してお互いにアドバイスし合ったり、場の工夫を行って練習の場を選択したりするなど、目標を実現するために自己選択できる場面を増やすこと。

(2) 今後の体力向上に対する取組

- ・体育科学習の導入5分を大縄や縄跳びの時間に充てることで、児童の体力向上や運動習慣の形成につなげる。
- ・大縄大会等の取組では、学級経営を軸に置いて行うことで友達との関わりを深めるとともに、運動の良さを実感することができるようにする。